

司式 杉山昌樹牧師

前 奏

奏楽 豊島慶子姉

開 会 招 詞 ペテロの手紙I2章3、4節

* 賛 美 歌 12:1 (ソングシート)

1. 聖なる、聖なる、聖なるかな、三つにいまして 一つなる 神の御名をば あさまだき おき
いでてこそ ほめまつれ。アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去って
ください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、
母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも
白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び
を再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この
口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)
罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人

のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 12:2

2. 聖なる、聖なる、聖なるかな、み手のわざなる ものみなは、三つにいまして 一つなる
神の大御名 ほめ奉らん。アーメン

公 同 の 祈 禱 6 ニケア信条

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。

われ ゆいいつ しゆ かみ ひと い きりすと しん しゆ よ ちち う
我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきにみ父より生ま
れ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によ
りて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアよ
り受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬
られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くた
めに、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。我らは、生命の与え主にして、
主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者
を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、
唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 中会会議 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ゼカリヤ2章14-17節 (旧約聖書1482頁)

マタイ24章36-44節 (新約聖書48頁)

説教・祈祷 「この生活の中に」 杉山昌樹牧師

* 賛美歌 16:1, 3

1. 久しく待ちにし 主よ、とく来たりて、御民の縄目を 解き放ち給え、主よ、主よ、御民を
救わせ給えや。

2. ダビデの裔なる 主よ、とく来たりて、平和の花咲く 国を建て給え、主よ、主よ、御民を 救わ
せ給えや。アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 64

みめぐみあふるる 父、み子、みたまの ひとりのみ神に みさかえつきざれ。アーメン

* 祝 祷

後 奏 (黙祷)

報 告 門脇献一長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：森永美保・加藤良明執事 2階：若月学執事 / ZOOMホスト・録音：大日南
信也

次週 受付 1階：藤井牧子・大日南隆夫執事 2階：大日南信也執事 / ZOOMホスト・録音：
森川莞太

※ グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

マタイ24：36-44 「神の道を歩む」

アドベント

今日からアドベントです。アドベントとはそのままの意味では「現れ、到来」です。向こうからやってくるイメージです。何がやってくるのかと言いますと、新しいことがやってくるのです。新しい時がやってくるのです。事実、カトリック教会では、今日から23年度になるようです。一方1月1日は世界平和の日だそうで、教会の主な行事としては、1月8日の公現日、赤ちゃんのイエス様の所を三博士が訪れた日（マタイ2：11）の方が重要度が高いようです。このように、ところ変われば品代わるではないですが、時間の捉え方も国によってだいぶ違います。実は今日一緒に考えたいのはこの時間の捉え方です。

その日とは？

今日の聖書の最初の一言は「その日」です。何の日か、と言いますとわたしたちが、終末と言っている日、この世界が終わる日のことのように。「ようです」という歯切れの悪い言い方をしているのは、それだけではないかもしれないからです。とはいえ、順を追ってお話ししますと、そもそも、このマタイ24章は弟子たちがイエス様に向かって神殿をほめたところから始まっていました。ところがイエス様は、この神殿はやがて崩れる、と言われたのでした（24：2）。これを聞いた弟子たちは驚いて、それはいったいいつのことですか、と質問攻めにした様子が24章の3節以下で描かれています。私たちにピンとこないのですけれども、あの時代のユダヤ人である弟子たちにとって、神殿というのは、イスラエルそのもののシンボル、これがあれば自分の国も、自分たちも、まあ、色々あるかもしれないけれども、まず大丈夫だ、そのような心のよりどころだったのだと思われるのです。しかし、それがなくなってしまうというのですから、それは大変、となるのも仕方がないのです。しかし、イエス様は、それは、すぐには来ない、しかし、様々な困難があったのちに、人の子がやってくることになるのだ（24：29以下）、といわれて、それに続いて「イチジクのたとえ話」というものが語られ、しるしをよく見抜くようにと言われたのでした（24：32以下）。直接の言葉としては「人の子が戸口に近付いていると悟りなさい」と33節に書かれています。イエス様が語られたようなしるしを見たら、しっかりその意味を悟るよというのです。それはこの世界がいよいよ終わっていきしるしだ、そのようにも読めるのです。

目を覚ましている

しかし、その一方で、今日の所では「その日、その時は誰も知らない」ともいわれているのです。先ほどの悟れ、という言葉とは一見矛盾するようすけれども、終末の時、イエス様が再びやってくる日、これを教会では再びイエス様の来る日、再臨の日と言ってきましたが、そのようにして、イエス様が権威をもって再びやってくる日がいつか、実は誰も知ることができない、ほかでもない、イエス様ご自身ですら知らない、とこのところでおられるのです。それじゃ、私たちはいったいどうすればいいのさ、と言いたくなりますが、これに続いて、イエス様は、目を覚ましていなさいと42節で言われているのです。そこで問題は、目を覚ましているとはいったい何のことかなのですが、そのために、一つ確かめたほうがよいことがあります。それは、イエス様が、このところで、その日、その時がわからない理由として、ノアの日をたとえとして用いているからです。一体ノアの日とは何だったのか、について、私たちは改めて確かめた方がよさそうです。ご存じの通り、ノアの話は創世記6章以下にある有名な出来事です。子どものころから教会に通っておられる方でしたら、もう耳にタコができるほど、聞かされた話かもしれませぬ。人が地上に増えて行った時、みんな自分勝手なことをして、ずいぶん悪い世界になっていったようです。それを嘆いて神様は、この世界をいったん終わりにする決意をしようというかなり怖い出来事です。しかし、同時に神様は、この世界を、良いものにしようとも考えられました。

ノアの日

そこで、聖書に書いてある通りの言葉では「神に従う無垢な人」であったノアとその家族によって新しい世界を始めるために、まずは彼らに箱舟を造ることを命じます。その後、ノアたちは命令された通り

に箱舟づくりを始め、それが完成した時に神様は動物を含めて箱舟に乗り込むように命じ、やがて大雨となり、地上で水かさが増し、この世界は一掃される、というのが大まかな流れです。一方で、実はその間周りの人たちが何をしていたのか、ということは実は創世記にはあまり書いてないのです。そして、イエス様がこのところで問題にしているのは、その時代の人たちの変わらなさの方です。もう一度37, 38節を読みます。「洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった」。ここで特徴的なのは、当たり前前の日常生活が、何事もなく続けられていた、ということ、そして、もう一つは、かなり重要なことが起きるその時まで、危機が迫っているとはだれも気付かなかったという言葉です。そして、この点で、私たちは、ひょっとして、あまり人間として進歩していないのかもしれないのです。ここにあるように、大切なことに対しての気づかなさという点です。

正常性バイアス

金曜日に、一つの裁判が大阪地裁でありました。赤城雅子さんという方が、佐川宣寿さんを訴えたものです。訴えの内容は、赤城雅子さんの夫の俊夫さんに、佐川さんが文書改ざんを命じ自殺に追い込んだ個人的な責任を問うというものでした。この訴えは退けられました。理由として第一の責任は国にある、というのは理屈としては正しいようにも見えます。けれども、改ざんの事実までは否定できていないのです。改ざんがあったのに、普通に考えれば内閣が倒れてもおかしくないのに、まるでトカゲのしっぽ切りのように、まじめで良心的な人の方が命を絶って、事実を明らかにしないまま、という決定が裁判所によってなされました。とてもおかしなことです。しかし、おかしなことが、おかしいとまらない、それこそ、おかしな空気感が、今この国にあふれているように見えます。むしろ、まだ、日本は大丈夫、まだ日本は行ける、このままでいいんだ、みんなでそのような思いにすがっているようにすら見えるのです。このような状態を心理学用語で正常性バイアスと言うようです。水害の時に、まだ大丈夫、と避難を先延ばしにしてしまうような心理です。太平洋戦争の時ですら、空襲が激しくなるまで、本気で戦争の危機を認めようとしないう人が多かったと聞いています。それどころか、そもそも、陸海軍の中樞がまだ戦えると言い続けていたのです。そうしてどうにもならないところまで戦争が続いたのです。少々しんどい話ですが、これは何も、日本人だけが特別に悪い、ということをお願いいたるではありません。いずれにしても私たち人間は、このように時代の変化に気が付かない、あるいは気づきたくない者のようなのです。

はっきりとしていること

そこでもう一つ気になる言葉があります。それは先ほどお読みしました38節の最後の言葉です。「人の子が来る場合も、このようである」。人の子、すなわち、イエス様です。イエス様が来られる場合にも、このようだ、すなわち、みんなは、まだまだ、この時代は何も変わっていない、と言い続けているところに突然やってくるものだ、このようにイエス様は言われているのです。しかし、その一方で、すでに最初に確認したように、イエス様がいつ来られるのか、については、私たちは、誰もそれをはっきりと見分けることはできないのです。そこで大切なのは、42節にある通り「目を覚ましていること」です。ではそもそも、目を覚ましているとは何のことでしょうか。実は、私たちには決定的なことがあります。すでに実現していて、もうこれ以上はないくらいはっきりとしていることがあります。それは、イエス様が、すでにこの地上に一度来てくださった、という事実です。さらに、イエス様は、この地上において、弟子たちを教えて、神の国の訪れを告げ知らせ、十字架において罪をあがなわれ、復活において死に打ち勝たれ、新しい人間のあり方を実現された、という事実です。そして今は、天から聖霊を遣わして、私たちにご自身を表し続けてくださっているという事実です。そしておそらくわたしたちが目を覚ましている、というのは、この初歩の初歩のような信仰について、生き生きとした感性をもっているということです。

家の主人にもできない

今日の聖書の43節では、泥棒に入られてしまった家の主人の短いたとえ話が語られています。イエス様は言われます。泥棒がいつやってくるか知っていたら、そんなことにはならなかったと、しかし、この

家の主人は、泥棒が来るなどと思っていなかった、きっと、ずっと大丈夫だ、何も変わらないと思っていた、のでしょうか。しかし、それはもう通用しない時代になっている、とイエス様が自身が言われるのです。なぜでしょうか。それは、イエス様がすでに来ておられるからです。実は、今日確認したかったことはこの単純な事実です。イエス様は、今、私たちの所に来ているのかいないのか、答えはすでに来ておられる、です。それ以外はないのです。イエス様がいつ来られるかわかっていたら、ではないのです。そうではなく、もうすでに来ておられ、今も、天において私たちに働きかけてくださっている方、その働きの最先端が、今ここに届いている、この礼拝に届いている、この事実をまずははっきりと知ること、実は目を覚ましているとは、そのことです。

用意する

最初に時間の捉え方、ということを行いました。今のこの時をどう考えるかです。日本社会はなお、今までと何も変わらない、昨日も今日も、そして明日も、というように過ごしていこうとする、平和でピカピカの日本がいつまでも続いていくと思いたい、という強い力の中で時間が過ぎて言っているように見えます。しかし、そこに、割り込むようにして、すでに、イエス様が来ておられ、神の国が、今このところすでに始まっているのです。そこで大切なのは、今ここで、わたしたちが、何を考え何を感じているのかです。イエス様は、はっきりと言われました。「だからあなた方も用意していなさい」。いつイエス様が来られても、いつ神様の前に立たされても、大丈夫なように、今この時を生き始める、イエス様と一緒に今を生きる、今この時の生き方を御心に沿ったものとしていく、それが、この「用意をする」という言葉の意味です。

神の道を歩む

終末、という言葉は、私たちには空想的にすら感じられてしまうかもしれません。しかし、イエス様を知る者にとっては、それは、遠いいつかのことではありません。今、このところで、神様の道を歩むことが、そのまま終末において、神様と、イエス様と一緒に先に進んでいくことへとつながっています。それで私たちは、今、このところを訪れているイエス様を喜び、イエス様と一緒に、神様の道を歩み始めるのです。

祈り

父なる神さま、あなたは、永遠の昔から、私たちを救いへと選び出し、そのご計画の実現のために、一人子を世に与えてくださいました。私たちは、この到来を喜び楽しむ時を過ごしております。その喜びを祝うクリスマスに向けて、今のこの時を恵みをもって歩み、さらなる喜びへと備えていく日々とさせてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。